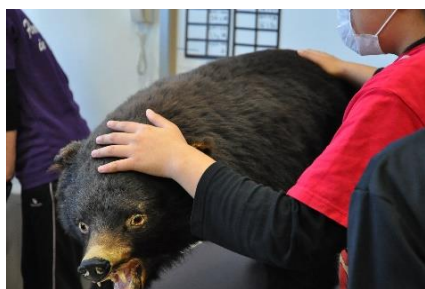


11月4日（月）～11月11日（月）は百周年ウィークでした。地域の児童生徒、地域の方々、約200名が三重県立盲学校を訪問してくれ、視覚障害の壁を取り除く様々な展示物に触れる体験をしてくださいました。

## ●さわって みる ミュージアム（三重県総合博物館）

ふだん、博物館では、展示物になかなか触ることができません。今回特別に、触って観察できるように剥製や頭骨（シカ、クマ、ウサギなど）を盲学校内で展示してもらいました。同時に、盲学校の児童が調べてきた内容についての掲示物なども展示しました。



## ●触察図（ボストン美術館贈）

昨年閉館した名古屋のボストン美術館より寄贈された、若冲やゴッホをはじめ有名なアーティスト作品の触察図をもとの絵の絵はがきとその説明文（墨字、点字）とともに20点ほど展示しました。目の見えない、見えにくい人と一緒に見たり、アイシェードを使用して交代で説明や感想を伝えあったりする体験のコーナーでした。



## ●でアイふれアイコーナー（視覚障害者用日常生活用品）

普段皆さんが読んでいる本を点字バージョンと比べてみたり、視覚障害の支援機器を見てもらったり、実際に試してもらったりしました。

白杖、点字を打つ道具、刻みのついている定規、音のでる温度計や計量器、拡大読書機、一滴ずつ出る醤油さし、色を読み取り音声でおしえてくれる機器、触ってわかる腕時計、字を書くと浮き出る紙など、たくさんの支援機器を知っていただきました。



## 百周年ウィークで来校し、各展示等を体験した 地域の小・中学校児童生徒の感想

- ・ 動物の剥製などに触るのが楽しかったです。  
少し怖かったけど、慣れたらすごく良かったです！
- ・ 盲学校交流見学会で、アイマスクをつけながら絵を感じるのがとても難しかったです。
- ・ ゴーグルをすると、本当に何も見えなくて、歩くのがすごく難しかったです。サポートをしてくれる人がいるのはすごくありがたいと思った。
- ・ 今日、盲学校交流見学会に参加して、目が不自由な人は耳や鼻などで、どのような状態かを調べているとわかりました。もし目と耳が両方不自由だったらどうなるのだろうと疑問に思いました。
- ・ 盲学校交流見学会に参加して、こんなにもたくさん、私が知らない障がい者の方が使う便利グッズがあると知れて、すごく良かったしすごく勉強になりました。

令和2年1月16日（木）には、英国パラ・スイミングチームが来校、児童生徒と交流します。